

業者の声を直接聴き、ともに解決策を考える伴走支援に寄せられる期待や信頼を着実に高めていくことができるよう、組織を挙げて取り組んでまいります。

また、女性・高齢者、障がい者の雇用、外国人材の受入れなどの働き手不足を解消するための支援のほか、生産性向上に向けた「デジタル化や企業価値向上に資する脱炭素への支援など、関係機関とも連携しながら、市内事業所の事業継続を支える施策に取り組んでまいります。

観光と移住・起業支援の強化

今年、当所は創立130周年を迎えましたが、歴史を振り返り会議所の役割を再認識する機会となりました。小樽は、ニシン漁の隆盛からはじまり、石炭や木材、農水産物など、物流拠点として多くの物や人が集まり、金融が集中することで商業港湾都市として大きく発展してきました。

時代の変化の中で往時とは賑わいの形が変わり、現在は、過去のニシンに代わって、インバウンドをはじめ国内外の観光客が集まる観光産業が市内経済を大きく支えていることから、中小・小規模事

業者のキャッシュレスや多言語対応など、観光客の受入環境整備に寄与する施策に取り組むとともに、歴史や自然を活かしたインバウンド需要開拓など、観光振興に取り組んでまいります。

また、昨年度の観光入込数は約807万人と、一日平均2万2千人以上が訪れている計算になりますが、この観光客の動態をビジネスチャンスと捉え、起業するための情報を精力的に発信していきたいと思っております。

特に小樽で起業を目指す人の割合は全道平均の約2倍という報告もあがっており、この機会を逃さず、積極的に小樽の観光の優位性を発信し、当所が開設する「おたる移住・起業ひと旗サポートセンター」の活動を一層強化し、移住及び起業を促進してまいります。

北海道新幹線活用議論の活発化

北海道新幹線は、本年3月に開業時期が10年以上遅れるとの見通しが示されましたが、引き続き短期短縮を求める要望活動を行ってまいります。

また、考える時間ができたことをチャンスと捉え、新幹線駅周辺の土地利用の在り方や、新幹線の

利用促進策などの検討を引き続き進めるほか、重要なポイントと考える、現小樽駅とのアクセス向上の議論を活発化していきたいと考えております。

北運河エリアなど

歴史まちづくりの推進

第3号ふ頭及び基部周辺における観光船ターミナルや緑地整備などの環境整備が令和8年度中に一旦完了します。すでに港や中心市街地には新たな人の流れが生まれており、今後は、みなとオアシス小樽の積極的な活用を通じた賑わい形成のためのソフト事業が重要なものと考えております。

また、北運河エリアは、臨港地区と歴史的景観地区が重なり、本年度に改修が終了した旧日本郵船小樽支店といった重要文化財や、木骨石造倉庫が多く残る魅力ある観光資源として大きな可能性を秘めています。

日本遺産や歴まち計画の認定が続き、歴史を活かしたまちづくりの機運が大変高まっています。OC+による北海製罐旧第3倉庫の利活用の取り組みへの支援をはじめ、これまで以上に北運河エリアの活性化に向けて、積極的に取り

組んでまいりたいと考えます。

只今、思いの一端を述べさせていただきましたが、わが街小樽の活性化や住みよいまちづくりは、計画的・継続的に、また、スピード感を持って官民が連携して進めることが重要であると考えております。小樽の10年後・20年後を見据え、小樽の強みを活かし、若者や女性の創造力とチャレンジスピリットを取り入れながら、夢と希望の溢れるまちを目指して積極的な事業活動に取り組んでまいります。

また、今後、この新しくなった役員、議員体制で、商工会議所を運営してまいります。特に、新しく副会頭に就任された山本副会頭は、商工会議所130年の歴史の中で、初めての女性の副会頭となります。是非、今までとは違った目線で頑張って頂きたいと思っております。

今後とも、経済活動が人を呼び込む好循環を目指し、事業者と地域を応援する商工会議所として邁進してまいりますので、皆様の変わらぬご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。